

令和3年度

奈良県公立高等学校入学者一般選抜学力検査問題

国語

注意

- 1 指示があるまで開いてはいけません。
- 2 解答用紙には、受検番号を忘れないように書きなさい。
- 3 解答用紙の※印のところには、何も書いてはいけません。
- 4 答えは必ず解答用紙に書きなさい。

―― 次の文章を読み、各問い合わせよ。

この部分については
著作権により公表できません

この部分については
著作権により公表できません

(三) — 線②とあるが、「私」をいつそう悲しくさせたのはどのようなことか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。
ア 魚の天ぷらを食べずに捨てるバチが当たってしまうこと。
イ 食べようと思っていた魚の天ぷらを妹に食べられてしまったこと。
ウ 妹よりも食べ物の好き嫌いが激しい自分の幼さに気づいたこと。
エ 魚に対して自分が抱いたような思いが妹にはないと感じたこと。

(四)

—— 線③は、具体的にどのようなことを指すか。文章中の言葉を用いて書け。
—— 線④は、魚をまえにしたときの「私」の心情を表現したものである。この表現とほぼ同じ内容を表している言葉を、文章中から十字で抜き出して書け。

(五)

—— 線④は、魚をまえにしたときの「私」の心情を表現したものである。この表現とほぼ同じ内容を表している言葉を、文章中から十字で抜き出して書け。

(六)

この文章からうかがえる妹の性格として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 勝ち気で物おじしない性格 イ 穏やかで落ち着いた性格
ウ 感受性が豊かで繊細な性格 エ 思いやり深く優しい性格

(七) この文章の表現上の特徴について述べたものとして適切なものを、次のア～オからすべて選び、その記号を書け。

ア 改まった言葉遣いで交わされる会話を描き、魚を食べることに対する、家族と「私」の認識の違いが生み出す緊迫感を伝えている。

イ 「私」がおそるおそる料理をしている様子を擬態語を用いて描写し、生き物の命を奪うことに「私」が恐怖を感じていることを表している。

ウ 過去の回想と現在の「私」の様子や気持ちを交互に語ることで、魚に対する「私」の思いを説き明かしている。

エ 魚との問答の中で「私」が何度も同じ言葉を繰り返して述べることで、魚に自分の思いを強く訴えていることを表している。

(二) — 線①の意味として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 上手に イ 用意周到に ウ 冷静に エ 臨機応変に
- (一) □ A、Cの漢字の読みを平仮名で書き、□ B、Dの片仮名を漢字で書け。

(注) ようけ＝たくさん 卓袱台＝四脚の低い食卓
はよせんと＝早くしないと ほかしたら＝捨てたら

二

次の文章を読み、各問いに答えよ。

この部分については
著作権により公表できません

この部分については
著作権により公表できません

この部分については
著作権により公表できません

(金田章裕『地形と日本人』による)

(注) カントリードイツの哲学者 必用||必要 視角||視点

(一) — 線①とほぼ同じ意味で用いられている言葉を、文章中から五字

で抜き出して書け。

(二) — 線②と同じ働きをしている「くる」を、次のア～エから一つ選

び、その記号を書け。

ア 喜びの便りがくるのを待つ。 イ もうすぐ一雨くるようだ。

ウ 留学生が私のクラスにくる。 エ よい考えが浮かんでくる。

(三) — 線③とあるが、この通訳が話したフランス語と日本語の説明として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア フランス語はフランス人にとって違和感のない言葉遣いのようだが、日本語は発音が不明瞭で伝わりにくいものであった。
イ フランス語はとても流ちょうな話しぶりだったが、日本語は言葉遣いに誤りがあり、どこかたどたどしさを感じさせるものであった。
ウ フランス語は用務に役立つものであり、日本語はたいそう丁寧で時代がかつた、現在の言葉遣いとは合わないものであった。
エ フランス語も日本語も、若々しさは感じられないものの、とても美しい言葉遣いであり、上品な人柄が伝わってくるものであった。
(四) — 線④とあるが、筆者が言語や言葉を人間社会の文化の基礎だと考える理由に当たる一文を、文章中から抜き出し、その初めの五字を書け。
(五) — 線⑤とあるが、このように筆者が述べるのはなぜか。その理由を、文章中の言葉を用いて四十字以内で書け。
(六) この文章の論理の展開の仕方について述べたものとして最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

- ア 筆者の体験に基づいて仮説を立て、その妥当性を複数の視点から検証し、新たな定義として整理している。
イ 一般的な考え方を説明した上で、筆者の実体験を根拠として自らの見解を解説し、結論づけている。
ウ はじめに複数の事例を挙げ、そこから共通して読み取れることを筆者の主張として示し、論をまとめている。

- エ 身近な課題から書き始め、その背景の分析と検討を重ねた上で、筆者の考える解決策を示している。

三

次の□内の文は行書で書かれている。楷書で書くときと筆順が異なる漢字はどれか。当てはまるものを、後のア～エからすべて選び、その記号を書け。

山の緑に花の色が映える。

ア 山 イ 緑 ウ 花 エ 色 オ 映

四

次の文章は、役者の考え方を記録した江戸時代の書物『耳塵集』の一
部である。これを読み、各問に答えよ。

私も初日は同じく、うろたゆるなり。しかれども、よそめにしなれた
る狂言をするやうに見ゆるは、けいこの時、せりふをよく覚え、初日には、^②ねから忘れて、舞台にて相手のせりふを聞き、その時おもひ出して
せりふをいふなり。その故は、常々人と寄り合ひ、あるいは喧嘩^{けんか}口論す
るに、かねてせりふにたくみなし。相手のいふ詞^{ことば}を聞き、こちら初め
て返答心にうかむ。狂言は常を手本とおもふ故、けいこにはよく覚え、^③初日には忘れて出るとなり。

(注) 初日＝舞台の最初の日 うろたゆる＝うろたえる

よそめにしなれたる＝他の人から見てやり慣れた

たくみなし＝用意しておくということはない うかむ＝浮かぶ

(一) 線①を現代仮名遣いに直して書け。

二

――線②とあるが、「ねから忘れる」とはどういうことか。最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア すっかり忘れるということ イ うつかり忘れるということ
ウ 緊張して忘れるということ エ 知らぬ間に忘れるということ

三

――線③と「我」が述べるのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、その記号を書け。

ア 互いに相手の言葉をよく聞いてその場に合うせりふを即興で話すこ
とが、稽古以上に優れた狂言をするためには必要だから。

イ 本番の舞台で息の合った狂言ができるように、すべてのせりふを十分に理解して話すことを日々の稽古で徹底しているから。

ウ 狂言においては、本番の舞台でせりふを間違えないことよりも、表情やしぐさと合わせて自然に話すことの方が大切だから。

エ 相手への言葉は、事前に準備するものではなく、相手の言葉を受け
て出てくるという日常を手本として狂言をしているから。

五 春香さんの中学校では、卒業を控えた三年生が後輩に伝えたい言葉と、
その言葉についての思いを文章に書き、冊子にまとめることになった。
次の□内は、春香さんが書いた【文章の下書き】である。これを読み、各問に答えよ。

【文章の下書き】

この部分については
著作権により公表できません

(池田晶子「14歳からの哲学 考えるための教科書」)
同書の95頁6行目から8行目より

これは、私が部活動でなかなか結果を出せずに悩んでいたときに、

先輩から教わった言葉です。そのときの私は、先輩の意図がわからず、「こんなに頑張っているのに。」と、素直に受け止めることができませんでした。

しかし、後日この言葉が書かれた本を読み、先輩と話をして、私は知つたのです。これは、私の努力不足を責めるものではありませんでした。先輩の意図を知つた私は、その優しさに胸が一杯になりました。心が軽くなつた私は、再び前向きに練習に取り組むことができ、次の記録会では自己最高記録を出すことができました。それ以来、この言葉は、私を前向きな気持ちにしてくれる大切な言葉です。

先輩から受け取つた大切なこの言葉を、感謝と激励の気持ちを込めて、皆さんに贈ります。

(一) 線部と同じ品詞の語を、【文章の下書き】の～～線ア～工から一つ選び、その記号を書け。

(二) 春香さんは、【文章の下書き】の↙のところに次の□内の一字を書き加えることにした。そのねらいとして最も適切なものを、後のア～工から一つ選び、その記号を書け。

理想を見失わずに努力し続ける私を認め、励ますための言葉だったのです。

ア 不足している内容を加え、読み手に思いを正確に伝えようとする。
イ これまでの内容をまとめ、読み手にわかりやすく伝えようとする。

ウ 話題を転換し、読み手に異なる考えを新たに伝えようとする。

エ 別の具体例を追加し、読み手に説得力をもつて伝えようとする。
(三) 春香さんは、先輩から教わった言葉が自分を前向きな気持ちにしてくれると述べているが、あなたを前向きな気持ちにしてくれることについて、次の①、②の条件に従つて書け。

条件① 二段落構成で書くこと。第一段落では、あなたを前向きな気持ちにしてくれることを具体的に書き、第二段落では、それについてのあなたの思いを書くこと。

条件② 原稿用紙の使い方に従つて、百字以上百五十字以内で書くこと。
ただし、題、自分の名前は書かないこと。

